

ひょうご基幹道路あり方検討委員会（第1回委員会） 議事要旨

1. 日 時 平成29年7月21日（金）10:00～12:00

2. 場 所 兵庫県民会館 7階 亀

3. 出席者（◎委員長）

[委 員]	◎角野 幸博	関西学院大学教授
	宇野 伸宏	京都大学大学院教授
	小池 淳司	神戸大学大学院教授
	今西 珠美	流通科学大学教授
	宇田川 真之	人と防災未来センター研究主幹
	中林 志郎	兵庫県商工会議所連合会専務理事
	糟谷 昌俊	兵庫県県土整備部長
[オブザーバ]	橋本 雅道	国土交通省近畿地方整備局道路部長

（代理：山田雅義）（国土交通省近畿地方整備局道路部道路企画官）

4. 議 事
- （1）委員会の設立について
 - （2）委員会の検討スケジュール等について
 - （3）あり方検討について

5. 議事概要＜委員からの主な意見＞

- ・例えば、神戸と豊岡では、30年後の将来像は全く異なる可能性がある。道路を使った生活のイメージを共有できると議論しやすい。
- ・地域毎の将来像実現のために、道路に期待されていることが何か、地域ビジョンでの検討と繋げて考えていく必要がある。
- ・道路の投資には、①生活に必ず必要な「生活基盤型」、②渋滞対策などの「問題解決型」、③「将来投資型」の3種類がある。これらは分けて考えるべき。
- ・逆走等の問題もあるが、正しく利用されれば、基幹道路は一般道路より安全であり、基幹道路の持つ役割の一つである。
- ・人口が減少しても、利便性の高いところに再配分されて混雑は減らないという検討や、ドライバーの高齢化等により、以前より道路の処理能力が低下しているという考えもあるため、瀬戸内側の基幹道路の渋滞は重点的に考える必要がある。
- ・長大橋梁等はそれ自体が観光資源になりうる。道路本来の目的ではないかもしれないが、今後はこれまで以上に留意すべき。
- ・災害時に大事なのはネットワークとして繋がっていること。また、物資輸送として道路本体も重要だが、救援部隊の集結する拠点としてSA、PAの活用も重要である。
- ・道路を賢く使うという意味では、できるだけ早く沿線に工場等が立地することを考えないといけない。道路整備とアピールのタイミングが重要である。
- ・財源が厳しい中では、生活に必要な道路の更新は公費、問題解決型の道路の新設等は、場合によっては有料ということも、将来的には考えていくべき。
- ・ネットワークがつながることで、発展する地域と衰退する地域が出てくる。どこかにつながれば、通過されるだけの地域が出てくることに注意が必要である。